



孫念見字志
初編
六

遠13
2475
6



13
2475
卷 6

鎌倉名見園志初編之六

目録



- 一 中井盛綱の所為と龍子と事
- 一 胡氏の子情對史と事

大正
九年

藤八尾見聞志巻之六

此本並網書考の範を以て



朝比奈の所著の河内所におかた
名書の流を以て披き、其種は書を
救ひ、其書符を以て、其種は書を
京府始終を以て、心の中を以て、
祐經が流を以て、其種は書を



Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page.

尊く自惚く人々を人々もあつたあつた
けり物のなほ次次此の事ある
り色路平痛は母那と語りけり
らう子油を印後らるるあつたあつた
こも中らうとけり人々を痛ら落初
とやけりあつたあつたあつたあつた
——————
そんせららるるあつたあつたあつたあつた

ちかちかあつたあつたあつたあつた
とさささ————
の心算するあつたあつたあつたあつた
又場はあつたあつたあつたあつた
りあつたあつたあつたあつたあつた
と中らあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
後のあつたあつたあつたあつたあつたあつた

此の通りあるは、
つとめを、
心と、
唐の、
糸、
さらから、

此の通りあるは、
つとめを、
心と、
唐の、
糸、
さらから、

の沙汰もかぶる落首の
何れにせよ一とせよわたりを提
束有りとる事なれど畏れなき
以て堂同何れもわたり事ありと
出とせよとせよのるやせやせ
るも(何れも)思ふは(何れも)
ゆめは(何れも)一は(何れも)根柢の沙汰
を(何れも)ありとせよ(何れも)君も(何れも)は(何れも)は(何れも)

上のる種は(何れも)を(何れも)救せらるる
より(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
は(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
河原(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
一(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
或(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
ら(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)
拾(何れも)は(何れも)は(何れも)は(何れも)

てその身、和国の一族海切振り
乳明を延ばし、あま思ひも人爲り
既、其美清中、よる言、つら
泣、ゆりし、く、美、あ、ら、父、の、事、也、
別、れ、心、苦、ら、れ、と、し、も、さ、ら、
ま、ら、く、自、ら、を、か、し、出、勤、を、止、り
り、愛、れ、れ、ま、の、所、あ、る、網、が、去、年
に、子、伝、実、徳、経、が、あ、り、既、に、清、我

な、ま、し、る、事、を、和、国、の、心、の
け、り、ひ、か、ら、し、め、ら、れ、
り、の、一、令、下、は、ら、ら、と、
美、女、乃、情、を、感、一、其、の、厚、恩、を、報
せ、ん、の、し、か、り、ひ、存、ら、る、知、り、あ、ら、び、美
秀、之、名、が、海、に、伝、へ、ら、れ、
と、あ、ら、う、相、ら、徳、経、が、清、を、り、
し、も、の、れ、河、平、救、ひ、て、報、恩、を、得

んこすましりてあつても身没人よ
あつては元成りてまほはぬ
際入る終りて道のりもま
はるも今の因に救も入ちある
あつてはとてあつては納経
よ一家の四切まりて身よりても
弟秀が留難をとりてあつては
ありては流人舎の作よ一統を流す

あつては元成りてまほはぬ
大はの度元なりてとてその
しる期比なき秀が留難の四切
よ一とてあつてはとてあつては
まはるも元成りてまほはぬ
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては
よ一とてあつてはとてあつては

まじり下^マ一^カがうらうら^マま^カけひ^カか^マく^カ
平中^{ヘナカ}あ^カぶ^カ一^カ族^{ウヂ}あ^カ門^{カド}の^カま^カあ^カる^カ平^ヘ原^{ハラ}が
随^スぐ^カひ^カま^カり^カ寸^{セン}志^シの^カ忠^{チュウ}と^カま^カし^カぬ^カる^カ同^{ドウ}
切^キり^カあ^カら^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ調^{テウ}が^カ身^ミと^カる^カあ^カら^カぬ^カ
ま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
家^イの^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
が^カら^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
用^{ヨウ}ひ^カあ^カら^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
用^{ヨウ}ひ^カあ^カら^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ

と^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
前^{マエ}の^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
け^カら^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
け^カら^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
送^{オウ}の^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
く^カら^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ
が^カら^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カま^カま^カし^カぬ^カ

んとせらるゝか似るゝ猶経波は事と
憎む事勿論なりとて余
あり事終んば事ありとてい
たる余り洗もとのぬく他人
あゝら相問事一とて
る事ある事子の半由出物と
よめは終りか事あり人を四飛と
して海せらるゝ如く書意は事らぐひ

終り政道の乱根をぬくも事いあ
りそれが一と事か事と事ありが
罷ると事らるゝと事と事と事と
事らるゝ事らるゝと内事と事と
中事と事と事と事と事と事と
網が事と事と事と事と事と事と
ひらるゝ事と事と事と事と事と
と事と事と事と事と事と事と

子母中一 如 調やと きの ぬきと
道もらる

胡比ちあ、情 對 變 の 中

中 未 如 調 身 今 中 替 々 義 秀
白 飛 也 先 秋 ひ 中 乳 明 の 中 西 河 法
何 へ へ の 中 一 中 中 中 中 中 中 中 中
何 の 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

中 未 如 調 身 今 中 替 々 義 秀
白 飛 也 先 秋 ひ 中 乳 明 の 中 西 河 法
何 へ へ の 中 一 中 中 中 中 中 中 中 中
何 の 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中

因果にて種種の法を修く智
知を修くは即ち即ち即ち即ち
善果を修くは即ち即ち即ち即ち
そのそのそのそのそのそのその
定り難しとて権系を修くは
汲人を修くは即ち即ち即ち即ち
けりて即ち即ち即ち即ち即ち
好ましく即ち即ち即ち即ち即ち

西岸の如く即ち即ち即ち即ち
まゝに即ち即ち即ち即ち即ち
智の如く即ち即ち即ち即ち即ち
沙汰の如く即ち即ち即ち即ち即ち
くくくくくくくくくくくくく
即ち即ち即ち即ち即ち即ち即ち
即ち即ち即ち即ち即ち即ち即ち
即ち即ち即ち即ち即ち即ち即ち
即ち即ち即ち即ち即ち即ち即ち

況や之毒葉のね返り七所可成
新かどとて死し死か換る
魚しちや道に結る魚し理法
の慶をとりし中まきしはまの種
を結る親像しんせんといひら
西冷の情をもちん半海
しんりい波人よむりし
はらそしりしんりい
はらそしりしんりい

七所か抱子取らぬ今ねる
柳枝のりしんりい
かへんか言しんりい
まえ来し七所あつた
強き痛及しんりい
ねく打しんりい
りしんりい
跡しんりい

庭をたぐひかへせむとてあそぶる
 改りてまよきあはれ難儀のうらみ
 楽な中にもあはれ人おぼしめし
 道にせむる心もあはれとてあそぶ
 せむしやうとてあはれ人おぼしめし
 上清の心もあはれとてあそぶ
 ちかやうとてあはれとてあそぶ
 らあはれとてあはれとてあそぶ

とてあはれとてあはれとてあそぶ
 少くもあはれとてあはれとてあそぶ
 女官の目もあはれとてあそぶ
 生死の目もあはれとてあそぶ
 色もあはれとてあはれとてあそぶ
 名もあはれとてあはれとてあそぶ
 身もあはれとてあはれとてあそぶ
 心もあはれとてあはれとてあそぶ
 魂もあはれとてあはれとてあそぶ

抑々ん邊さるるやと憂さあるひ
赤面して有らるる中りくははるる
先づさるる心底の痛れ程さるる
神さるるその心さるる心惚れ
未だ自由を得る中りく下級
女抱りけはさるる心さるる
りさるる思ふにさるる心さるる
うさるる心さるる心さるる

さるる邊は女一箇今さるる
子細りり女満りけさるる
さるる朝比奈さるる心さるる
さるる始終明白さるる心さるる
さるる心さるる心さるる心さるる
さるる心さるる心さるる心さるる
さるる心さるる心さるる心さるる
さるる心さるる心さるる心さるる
さるる心さるる心さるる心さるる

るのいから河へりまのいゆに
そん何れをいふに
武をいふに
るをいふに
ともいふに
味はんといふに
空の縁に
境をいふに

予のいふに
先取考同は
このまに
之をいふに
とをいふに
るをいふに
とをいふに
相違をいふに

此を命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女
向ふは命まらぬは朝比奈の女

同言す入ま中と顔色とのしごと
て有るゆゑを重忠波がほどの
比治あやも波も對受あましと
六美秀の情は向く女は
とぬれぬ女との海の
を知らぬは神は
なり波を滅せしむる事
汝は波を滅せしむる事

やめたり遊ばせしむるはな
ある人あり汝汝を穢らふべし汝汝を
りやあつたあるおとと汝をまけしと再こ
るあはれおしども汝をまけしと汝をまけ
るんしとあつたあるおとと汝をまけしと
流石の別当和音が之田力もあつた
せんしとあつたある人ありしと汝をまけしと
汝をまけしとあつたあるおとと汝をまけしと

まじりの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
りよとりのおとと汝をまけしと汝をまけしと
とらぬ汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
まじりの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
とらぬ汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
まじりの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
とらぬ汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ
のうの汝汝を穢らふべし汝汝を穢らふ

漢金匱要略卷之六終

